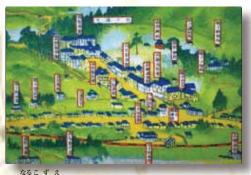
第3部 変わりゆくみち 近くなるまち ― 明治から昭和へ



『内國旅行日本名所圖繪第5巻』 上田 維暁編 青木嵩山堂 明治 22(1889)

江戸が「東京」と改められ、明 治時代が幕を開けます。廃藩置県 や学制公布など、日本の仕組みが 大きく変わっていく一方で、学術・ 文化もめざましい発展を遂げまし た。明治から大正、昭和へと時代 が移りゆく中で、旅の在り方やま ちの様子も、こうした変化に大き く影響を受けることになります。



『鳴子圖繪』 山本晃著 鳴子温泉旅館組合事務所 大正 13(1924)

第4部 旅にしあれば、よりみちも楽し

第4部 では当館所蔵の絵葉書で、なつかしい道や街の風景をご覧いただきます。戦前の「仙臺名所」「仙臺近郊 秋保温泉繪葉書」、 昭和3年(1928)の「東北産業博覽會」絵葉書などを展示します。

通いなれた道、むかし通った道、旅した街並み、あらためて目にする街角、鮮やかに思い出す風景をご覧いただきます。



『大橋』

仙臺名所』[戦前]



「芭蕉の辻



- 平成25年3月1日(金)から平成25年6月30日(日)まで ■場 所 宮城県図書館2階 展示室 ■期
- 図書館開館日の午前9時から午後5時まで
- ■お問合わせ先 宮城県図書館調査班 TEL 022-377-8499

ぎ 図 館 2

-ズ第36回

南三陸町図書

南三陸町図書館館長 及川 庄弥

震災で流失した南三陸町図書館再開までの歩み

南三陸町図書館は兼務の館長他3名の職員体制で、蔵書も3万冊を超え、平 成23年度には、施設設備も充実した図書館として歩みだすことになっておりまし た。3月11日の震災により、海沿いにあった南三陸町図書館は、津波に一瞬に飲 み込まれ、なくなり、館長が帰らぬ人となりました。震災当初は浸水していて、 あった場所さえわかりませんでした。

避難所暮らしの時、体育館入口の階段の外灯下で、子供たちが本を読んでい ました。どうにか図書館を再開できないかと考えていたところ、全国より支援を いただき、何とか図書館用プレハブを設置して、平成23年10月5日に蔵書数3千 冊で再開することができました。

更に11月からは移動図書館車を隣町の仮設住宅にも運行し、12月からは土日 も開館しました。

24年7月には歌津コミュニティ図書館魚竜がオープンしました。この施設は仮 設住宅の住民が気軽に来て、本を読んだり、会話したり、趣味の活動ができる 場所です。子供たちの学習スペースも設置しました。

25年2月に完成した、南三陸町オーストラリア友好学習館(愛称:コアラ館) は、図書館と学習室、交流室があり、1万冊の蔵書をそろえ、調べ物や、情報収 集、子供たちの学習室もあり、仮設住宅で読書、学習環境が厳しい中で、落ち着 いてゆっくりと読書することができ、憩いのスペースとして子供から老人までく つろげる場所になりました。

南三陸町図書館の概要





*蔵書冊数/児童書 約3,000冊 一般書 約7,000冊 *開館時間/午前9時~午後5時

電 話/0226-46-2670 FAX /0226-46-5155 PRポイント: 年末年始以外は休まず開館しております。